

参考文献の記述

レポートや論文を執筆する際に参考にした文献を明示する必要がある場合には、「参考文献」の項目のもとに、著者名順に参考文献リストを作成する。参考文献の記述方法は引用文献と同様なスタイルを用いる。参考文献の記述は、特に指示がなければ、上述したSISTやMLAなどの標準的なスタイルで記述するようにする。また、注の作成、目次作成、索引作成に、ワープロの機能をうまく利用すると能率があがるので、効果的に利用するとよい。

レポート・論文作成に役立つ情報源

SIST (<http://www.jst.go.jp/SIST/index.htm>)
<http://lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp/thesis.html>
<http://www.bekkoame.ne.jp/i/isw/thesis/int.html>
http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write_paper/paper.html
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~kurapy/writing.html>

アウトラインプロセッサに関する情報源

<http://www.linkclub.or.jp/~katou/pctips.html>

定められた形式にしたがって提出をする。

レポートのテーマの例

引用文献： 樋口裕一著『ホンモノの文章力』（集英社新書，2000年）より

イエス・ノー形式の問題提起の例

- ・学級崩壊——>「学級崩壊を解決できるか」
 ——>「学級崩壊の原因は文部省のゆとり教育にあるか」
 ——>「学級崩壊は学校に責任があるのか」
 ——>「学級崩壊は子供のわがママが原因か」
- ・コンピュータと生活——>「コンピュータは生活を豊かにするか」
 ——>「コンピュータは生活にとって必要か」
 ——>「コンピュータによって生活を効率化すべきか」
- ・小説は現実を映す鏡だというスタンダールの言葉は正しいか
- ・虚偽に含まれる真実などありえないというのは正しいか
 など

【演習1】

各自、テーマを設定し、そのイエス・ノー形式の問題提起を考えなさい。

【演習2】

上記で作成した問題提起に関連する文献リストを作成しなさい。

参考文献の一般的書き方の例（文献3，4）

1．日本語単行本の場合

著者名『書名』出版社、発行年、（引用ページ）

2．日本語論文：雑誌の場合

**著者名「論文名」『論文・雑誌名』, (ジャーナル名称)、巻数、号数、発行年、引用
ページ**

3．新聞・雑誌記事の場合

『新聞名』、タイトル、発行年月日、版（例：多摩版、東京4）

4．インターネット Web サイトの場合

“タイトル”，記述者，URL，日付

参考文献の例

単行本の場合

[1]ロバート・D・パットナム，ニコラス・ベイン著・山田進一訳『サミット「先進国首脳会議」』ティビーエス・ブリタニカ，1986

新聞記事の場合

[1]朝日新聞（2000a）「ハイテク犯罪、G8で対策へ 15日から官民が会議」朝日新聞社 2000年05月12日 朝刊 ページ：003 面名：3 総合

インターネットの場合

[1]「世界経済の現況」<http://www.miti.go.jp/report-j/g8tusyoj.html>、平成10年版通商白書,2000.6.16

[2]「日本における環境保護支出勘定の試算」
<http://www.epa.go.jp/99/g/19990615kankyohogo/menu.html>、平成11年6月15日

参考文献（日本語はあいうえお順）

- [1] 大脇雅子・中野 麻美・林 陽子『働く女たちの裁判―募集・採用からセクシャル・ハラスメントまで』学陽書房，1996
- [2] 成城大学法学会編『21世紀を展望する法学と政治学』 信山社出版，1999
- [3] 福島瑞穂著『もっと「男を磨いて！」 セクシャルハラスメント・家族法について 開かれた人間関係をめざして 講演録』 自由人権協会，1995
- [4] 労働省女性局女性政策課編著『改正男女雇用機会均等法とセクシャルハラスメント防止対策の解説』 日刊労働通信社，1999

- [5] 『東京新聞』「【政治】学校自己評価導入 日教組側も提言」、2000年6月16日（金）朝刊（2000.6.16a）